

ボリビア農業の特徴

ボリビア農牧省 ルシオ・チョケ

(明石光一郎, 井上荘太郎訳)

1. 二重経済

- (1) 小農経済部門
- (2) 商業的農業部門

2. 土地所有構造

- 3. 農業生産と主要作物の動向
- 4. 経済における農牧業部門

1. 二重経済

ボリビアの国土面積は、1,098,581km²であり、その自然条件によって3つの地域に明確に区分されるとともに、生態、社会、生産の面で種々の特徴を有している。3つの地域とは、高原地方：ラパス州、オロール州およびポトシ州、溪谷地方：コチャバンバ州、チュキサーカ州およびタリーハ州、熱帯地方：サンタクルス州、ベニー州、パンド州である。

このような地域的特性による相違の上に二重経済が重なりあう。伝統的な生産地域である高原地方と溪谷地方では小農の農業が行われており、他方、熱帯地方では、近年商業的農業が現れてきた。

(1) 小農経済部門

ボリビア社会とボリビア経済の発展は、高原地方と溪谷地方の主要部に中心を置いていた。ここでは、文化的には原初的な状態が定着し、歴史的には社会組織と生産組織との関係が伝統的な形態でうまく対応していた。このため、文化的にも経済的にも新しい地域が次第に現れてきているにもかかわらず、高原地方とアンデス山間の溪谷地方は、20世紀の終盤においても、人口が集中している非常に重要な地域である。この地域は、小農経済の

基礎となっているが、さまざまな社会的、経済的側面にみられるのと同様に、生産面においても、深刻な制約と問題とを抱えている。

現代のさまざまな動きの中で、市場経済の拡大に伴って社会組織と生産組織が徐々に分離してきたことは、おそらく農牧業がかかえる問題の中でも、主要な構造的亀裂の一つである。

農業が新しい形態へ発展していることを示すものとして、(共同体的土地利用から)土地をより個別的に利用する動きがある。他方では、伝統的生産方法と伝統的技術が維持されているものの、この動きは伝統的社会組織を次第に崩壊させていくものと思われる。

小農は、深刻な貧困にあえいでいる。PNUD(国連開発計画)の最近の研究によると、農村に居住する者のうち82%は基礎的な必需品が不足しており、47%は極めて貧困であり、6%は貧困のどん底にある。

農村における平均寿命は46.25歳であり、幼児と子供の死亡率はそれぞれ1,000人当たり112人と168人である。この数字は、小農が抱える問題を示している。

農村の生活条件も驚くべきものである。農村の全家庭のうち66.4%は寝室が1部屋しかなく、そのうち55%には4人以上が住んでおり、さらに7人以上住んでいるのが15%もある。65%の家庭が河川、湖沼またはたまり水から水を引いており、88%には衛生的な便所

がない。

農村の生活が貧しいことは、教育を受ける機会がわずかであるか、ほとんどないために、15歳から24歳の農村住民の52%が文盲であるという事実からも明らかである。これは、学校がない、上級課程がない、金がない、働かねばならない、といった農村の生活におけるさまざまな困難や制約によるものである。

(2) 商業的農業部門

小農的農業の対極に商業的農業が存在する。それは、農業のフロンティアが、伝統的地域外で、競争力があり市場の変動にも対応力のある条件を備えた農業が発展するのに適した地域に拡大したことから生まれたものである。

商業的農業は、小農的農業と比べて、労働/土地比率の低下をもたらすような資本財をより集約的に利用する技術の採用とか、雇用労働力の大量使用、工業起源の資本の統合、改良品種の使用率の高さ、農産加工業の展開、公的金融への直接のアクセス等の面で、きわだった差異がある。

2. 土地所有構造

不平等な土地所有構造が存在している。農地改革がもたらした重大な歴史的変化にもかかわらず、現実の土地所有構造は、公平からほど遠いものである（表1）。

明らかに小農と考えられる5 ha未満の農家は全体の68%を占めているが、全農地面積の1.4%を占めているにすぎない。1 ha未満の農家が27%、2 ha未満の農家が43%を占めている。その対極では、500 ha以上の経営（全体の1.8%）が85%の農地を占め、5000 ha以上のラテイフンディオが49%の農地を占めている。

1975年の農地改革院の統計によると（表2）、農地改革による配分を受けた高原地方と溪谷地方で、農家の21.7%は1 ha未満で

あり、61%は5 ha未満である。他方、熱帯地方では、全体の46%が20 haから75 haの規模となっている。

これらの数字は、農地の所有構造における極端な零細性と不平等の証明である。こうした事情が、代わりの収入源を求めて一時的にあるいは最終的に農地を離れる農民の貧困の困難な状況の、原因となっている。

表 1 ポリビアの土地所有構造

規 模 (ha)	面 積		農家戸数	
	(千ha)	(%)	(千戸)	(%)
< 1	26.3	0.1	85.3	27.1
1~ 2	65.5	0.3	51.0	16.2
2~ 5	231.6	1.0	78.2	24.9
5~ 10	243.7	1.1	37.1	11.8
10~ 50	824.0	3.6	39.4	12.5
50~ 100	661.7	2.9	11.4	3.1
100~ 500	1,266.8	5.6	6.3	2.0
500~5,000	8,302.8	36.6	5.1	1.6
>5,000	11,047.8	48.7	0.7	0.2
Total	22,670.2	100.0	314.6	100.0

出所：INE, II Censo Nacional Agropecuario 1984.

表 2 高原地方、溪谷地方、熱帯地方における農場の分布（1975）

規 模 (ha)	溪谷地方と高原地方 (%)	熱帯地方 (%)
1以下	21.75	2.25
1~ 3	23.70	7.10
3~ 5	15.50	6.90
5~ 10	16.70	9.20
10~ 20	13.65	14.18
20~ 35	3.70	14.40
35~ 50	1.80	8.90
50~ 75	1.50	22.50
75~ 100	0.60	1.70
100~ 200	0.58	2.20
200~ 500	0.40	2.80
500~ 1,000	0.09	2.50
1,000~ 2,500	0.03	2.90
2,500~ 5,000	0.00	1.15
5,000~10,000	0.00	0.70
10,000 以上	0.00	0.62
合 計	100.00	100.00

3. 農業生産と主要作物の動向

こうした制約と悪条件にもかかわらず、小農経済部門は、農牧業の総生産額合計のほぼ80%を占める(表3)。ここでの生産は主として国内市場に向けられており、輸出品としては、コーヒー、キヌア、砂糖きびのみが目立っている。

こうした中で、ばれいしょ等のいも類、大

表 3 生産者のタイプ別の生産の分布
(1987年価格による粗生産額構造)

	1980~82	1983~85	1986~88
伝統的 生産	77.98	76.83	78.99
近代的 生産	22.02	23.17	21.01
合 計	100.00	100.00	100.00

出所: Proyecto BOL/88/021 en base a información de la Dirección Nacional de Estadísticas MACA.

注: コカの葉を含む。

麦、小麦、とうもろこし、キヌア等の穀物や飼料作物、その他のアンデス原産の作物が、従来から小農的生産の対象であった。それらに、主に小規模な農場で栽培されているコカの生産を付け加えなければならないかもしれない。全てのケースにおいて小農的農業における収益は、技術と近代的な投入財の利用が極端に限られているために、極めて低い。

しかし、それにもかかわらず、小農経済の主要な特性のひとつは、それが極めて不均質なことである。

不平等な土地所有と生産における漸進的な商品化は、生産面、技術面、経済面、社会面における差異を生み出した特に重要な要因であった。

小農経済部門は、最も絶対的な辺境にあるものから、国の経済や社会に相対的に統合されているものまでを含む広い範囲の生産者を包含している。前者は、サービスの中心と重要な経済の核からの距離の遠さによって、ま

表 4 生産物の粗生産額の指数 (1987年価格)

	構成比 88年値(%)	1980~82	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989 ¹⁾
農 業	83.7								
穀 物	16.2	100	74	121	133	115	122	115	100
い も 類	23.3	100	43	84	99	96	107	109	85
工 芸 作 物	6.2	100	81	88	105	105	88	89	91
野 菜・豆 類	8.4	100	59	91	95	100	106	113	113
果 物	10.3	100	94	88	89	100	109	114	114
刺 激 性 作 物 ²⁾	11.5	100	128	143	159	174	191	223	223
ま ぐ さ	7.8	100	82	57	74	73	79	84	84
牧 畜 業	14.1								
牛	9.6	100	114	97	101	105	110	119	119
豚	3.4	100	93	84	88	95	104	112	112
羊, 山羊, リャマ, アルパカ等	1.1	100	109	43	52	64	69	76	76
林業・水産業	2.2								
ゴム, カスターニャ	1.2	100	39	47	75	105	130	133	136
狩 猟 獲 物	0.4	100	101	103	105	109	117	120	123
木 材	0.4	100	38	44	47	32	34	34	35
漁 獲 物	0.2	100	115	123	132	154	170	176	198
計	100								

出所: Elaborado por el proyecto BOL/88/021 en base a información de la Dirección Nacional de Estadísticas del MACA, Centro de Desarrollo Pesquero e INE.

1): 仮置きの数値

2): コカ栽培を含む

表 5 農 産 物 生 産 指 数 (1980=100)

農 産 物	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
1 バ れ い し ょ	100	105	95	64	93	97	86	84	85
	100	105	121	63	93	101	104	123	122
	100	110	114	40	86	98	89	104	109
2 と う も ろ こ し	100	107	97	89	110	119	100	103	100
	100	123	120	99	118	122	119	122	116
	100	131	117	88	130	144	119	125	116
3 キ ャ ッ サ バ	100	99	126	83	154	228	222	227	234
	100	88	104	99	83	75	86	85	84
	100	87	131	82	128	172	192	194	196
4 飼 料 用 大 麦	100	99	94	113	64	101	105	112	119
	100	96	98	74	68	76	78	89	90
	100	95	92	84	43	76	82	100	107
5 砂 糖 き び	100	103	108	105	105	115	111	97	86
	100	98	90	85	87	89	85	81	81
	100	101	97	89	92	103	95	78	70
6 米	100	96	82	66	172	171	139	141	145
	100	111	111	98	100	107	103	122	124
	100	106	91	65	172	182	144	172	180
7 ア ル フ ァ ル フ ァ	100	107	106	99	163	181	186	181	184
	100	100	101	59	41	41	37	29	31
	100	107	107	58	67	74	69	70	72
8 バ ナ ナ	100	101	91	96	130	155	161	168	175
	100	102	101	97	75	86	89	97	99
	100	103	92	93	98	133	143	163	173
9 大 豆	100	93	130	112	113	181	193	161	201
	100	131	140	121	129	123	163	159	150
	100	122	181	136	146	223	315	255	317
10 未成熟とうもろこし	100	53	94	55	109	120	121	122	123
	100	91	104	77	62	61	66	66	69
	100	48	97	42	67	73	81	81	85
11 オ レ ン ジ	100	104	105	106	113	109	110	111	115
	100	95	107	105	45	41	62	73	75
	100	98	112	112	51	45	68	81	86
12 キ ャ ャ ア	100	147	159	275	214	307	274	303	320
	100	99	111	48	87	77	84	88	79
	100	146	177	131	186	237	231	267	253
13 大 麦	100	110	112	62	112	125	125	123	117
	100	106	113	99	125	125	128	125	122
	100	117	126	61	140	155	161	154	142
14 コ ー ヒ ー	100	103	103	103	110	121	122	122	129
	100	101	100	100	95	94	95	100	99
	100	104	103	103	104	114	115	123	128
15 小 麦	100	96	96	75	99	100	106	94	81
	100	116	114	101	132	124	128	135	128
	100	111	110	76	131	124	135	127	104

出所：Dirección Nacional de Estadísticas, MACA.

注・各農産物の上段=面積、中段=収量、下段=生産量。

た不適地の開発によって、また適切な技術とインフラストラクチャーの欠如によって、そしてその結果としての生産の多様化への意欲の乏しさによって特徴づけられる。後者においては、小農的生産者は、生産のダイナミズム、生産に関わるサービスへのアクセス、市場との別の結びつき方等について、ずっとよく知っている。

一方、商業的農業は、一般に、飛び地的(enclave)輸出経済の発展に関連している(大豆、砂糖きび、綿花、その他)。また、国内市場向けの作物、一般的には、輸入代替の過程に確実に貢献してきている米、とうもろこし、小麦のような作物の生産に関わっている。

表4に見られるように、農牧業部門の経済活動は、部門合計の粗生産額の84%を占める農業、次いで、牧畜業(14%)、林業と漁業

(2.2%)とで構成されている。

重要なものからあげると、いも類、穀物、刺激性作物(主にココカ)、果樹、牛の牧畜の順になる。

ばれいしょ、とうもろこし、キャッサバ、大麦、米、アルファルファ、キヌア、コーヒーは、それぞれ農牧業部門の粗生産額合計に対して16.9%、11.3%、4.9%、4.8%、2.8%、2.6%、1.4%、1%のウェイトを持つ重要作物である。

相対的に数量が大きく、かつ食料安全保障の見地から見てより重要な作物(穀類といも類)の1980~82年平均を基準とした生産額は明らかな停滞傾向を見せている。大豆を除くと、加工向けの作物、特に綿花(繊維)、砂糖きび、落花生、煙草は、貧弱な実績しか示していない。

漁業は、部門の生産合計の中では小さいと

表 6 農 牧 業 部 門 の 指 数

	1980	1981	1982	1983 P	1984 P	1985 P	1986 P	1987 P	1988 E	1989 E
農牧業国内総生産 (100万USドル、 名目)	903	1142	1167	1233	1716	906	847	886	863	S. D.
国内総生産合計に占める農牧業部門の割合 (%)	18.4	18	20.1	18	22.2	24.3	23.8	23.3	22.4	S. D.
主要輸出農産物 (100万USドル、 名目)	114	48.2	45.8	38.3	21.5	28.1	65.6	78.3	88.4	104
コーヒー	20.8	15.8	15.5	12.9	6.6	13.8	13.2	11.5	16.9	8.6
木 材	31.1	18	11.6	7.8	6	5.8	22.7	30.9	25.5	19.2
砂 糖	51.2	5.7	8.1	12.3	6.6	1.8	4.8	8.6	6.3	17.9
皮 革	4.8	5.2	3.2	0.8	0.8	1.4	6.2	8.1	19.5	13
大 豆	6.1	3.5	7.4	4.5	1.5	5.3	18.7	19.2	20.2	45.3
農牧業輸出/総輸出 (%)	11	4.8	5.1	4.7	2.7	4.2	10.3	13.7	14.7	14.8
農牧業部門向け輸入 (100万USドル、 名目)	129.4	151	69.2	64.9	73	91.9	117.8	128.2	S. D.	S. D.
食 料	104.6	115.9	56.8	46.4	42	46.1	61.9	92.8	S. D.	S. D.
中 間 財	11.2	14.7	7.3	11.2	17.5	18.4	15.8	11.2	S. D.	S. D.
資 本 財	13.6	20.4	5.1	7.3	13.5	27.4	40.1	24.2	S. D.	S. D.
農牧業輸入/総輸入	19.4	16.5	12.5	11.3	14.9	13.3	17.5	16.7	S. D.	S. D.

出所: Banco Central de Bolivia.

P : 仮置きの数値

E : 推計値

S. D.: データ無し

はいえ、1989年の水準で10年前の2倍となっていており、唯一、刺激性作物と比べうる重要な動向を記録している。

畜産部門では、羊、山羊、リャマ、アルパカ等の生産が、家畜の群れの大きな減少によって引き起こされた1984年におけるドラスティックな減少以降、余り回復していないのと対照的に、牛と豚の生産が、ゆっくりとではあるが、一貫した成長を過去10年間に記録している。過去10年間ににおける農牧業部門の動向の特徴的な現象は全般的な停滞であり、農業収益の減少は生産の技術的な条件と水資源の制約からくる現象である（表5）。低収益耕作の最大の部分は乾燥地からのものである。

4. 経済における農牧業部門

国内総生産全体に占める農牧業部門の割合は、1980年から1989年の期間において、18%

から24%の間を変動している（表6）。

輸出全体に占める農牧業部門の割合は相対的に小さい。1980年から1989年を通じて、おおむね平均は10%以下であり、最高で1989年の14.8%であった。

農牧業部門の国の輸入全体に占める割合は、過去10年間ににおいて11%と19%の間を変動しており、近年ではその割合は15%程度を維持している。

（付記） ルンオ・チョケ（Lucio Choque）氏は、ボリビア農民農牧省の職員で、同省で日本の専門家として協力している川崎敬氏のカウンターパートである。

氏は、国際協力事業団の研修で、「農業開発計画」について学ぶため、1990年8月20日～11月29日の間、日本に滞在した。氏の3カ月余りの滞在中のうち、9月18日～11月2日まで、本研究所で、客員として、研究を行なった。研修期間中に氏が定例研究会で、「ボリビア農業」について発表したものをもとに本稿を取りまとめたいただいた。

なお、本稿の原題は“*Características de la Agricultura Boliviana*”である。